

東京大学 次期総長予定者 選考結果、選考理由及び選考過程

＜選考結果＞

次期総長予定者 藤 垣 裕 子（ふじがき ゆうこ）

（総長任期：令和9年4月1日～令和15年3月31日）

次期総長予定者略歴 別紙のとおり

＜選考理由＞

東京大学総長は、東京大学憲章の掲げる目標・理念を尊重し、その達成・実現を追求する明確なビジョンと強い意志を有することが求められる。現在の世界と大学をめぐる危機や課題は大きなものがある。その中で、大学は、変革を可能にし、より充実した未来に向けて飛躍するチャンスを作る担い手である。

その役割を果たすためには、多様な分野の世界トップクラスの研究者を集め、次世代の研究者を育成できる健全な財務体質の強化が必要である。また、国内外の学生や研究者を惹きつける多様性と包括性が担保された魅力的な研究環境を実現し、我が国の学術研究ネットワークを牽引していかななくてはならない。東京大学は、社会の多様な主体と常に対話し、協調しながら、イノベーション・エコシステムの中核的役割を果たす、世界の先導的モデルとみなされる最高水準の研究大学を目指している。

一方で、本学においては近年、ガバナンス上の課題が相次いで顕在化しており、不測の事態に的確に対応し得るリスクガバナンス体制の強化が喫緊の課題となっている。総長選考にあたっては、高い倫理観を持って本学の社会的信頼を回復し、強固な運営体制を構築しうる能力を備えていることも重視しなければならない。

こうしたことを念頭に、所見、推薦書、面接、所信表明動画、意向投票を踏まえ、さまざまな情報を総合的に検討し、議論を尽くして選考を進めた。

その結果、藤垣氏は、理事・副学長の経験を通じて、本学が学術界の象徴、シンボルであることを強く意識し、専門分野である科学技術を社会に伝えるコミュニケーション力を活かして、学術への信頼を回復する強い意志と能力を備えていると判断した。

激変する社会環境の諸問題を解決する鍵は新たな価値創造にある。そのためには先進化する技術の活用の在り方に多様な知を活かして、チームワークで事前にリスクに対応し、学術への信頼を高め、大学という組織を発展させることが希求される。

同氏は、文理融合、学外・学内のコミュニケーションの充実を通じた多様な知の発展に向かって、幅広い国際的な経験をもとに、より開かれた大学に向けた変革を実現する十分な能力を持っている。

壁を所与と考えない力、障壁を生む分断を乗り越える力を本学が持つために、同氏の知見と能力を評価し、総長選考・監察会議は同氏を次期総長予定者として選考した。

<選考過程>

総長選考日程

令和8年

4月 7日（火）	総長選考開始の公示
6月19日（金）	第1次総長候補者として推薦する者の選出（経営協議会）
6月29日（月）	第1次総長候補者として推薦する者の選出（代議員会）
7月 1日（水）	第1次総長候補者の決定（総長選考・監察会議）
8月14日（金）	第1次総長候補者の面接調査（総長選考・監察会議）
8月17日（月）	第1次総長候補者の面接調査（総長選考・監察会議）
8月19日（水）	第2次総長候補者の告示（総長選考・監察会議）
9月28日（月）	第2次総長候補者への意向投票
9月28日（月）	次期総長予定者の決定（総長選考・監察会議）

第1次総長候補者の決定

総長選考・監察会議は、経営協議会及び代議員会から第1次総長候補者として推薦された者について審議し、第1次総長候補者を決定した。

第2次総長候補者（五十音順）

総長選考・監察会議は、第1次総長候補者から提出された「総長候補者資料」及び「東京大学の教育、研究、運営・経営等に関する所見」並びに推薦人からの推薦書を踏まえて面接を含めた調査を行い、その結果に基づいて、第2次総長候補者を決定した。

大 越 慎 一	（執行役・副学長、理学系研究科教授）
菅 野 暁	（理事）
染 谷 隆 夫	（執行役・副学長、工学系研究科教授）
藤 垣 裕 子	（総合文化研究科教授）
山 本 隆 司	（理事・副学長）

意向投票結果

有資格者数 2583人

【第1回目】

（五十音順）

大 越 慎 一	3 6 3 票
菅 野 暁	1 5 2 票
染 谷 隆 夫	8 1 8 票
藤 垣 裕 子	4 0 0 票
山 本 隆 司	3 7 7 票

白票 4 5 票

計 2 1 5 5 票

【第2回目】※第1回目投票の得票多数の者上位3人に対して実施
(五十音順)

染 谷 隆 夫	1 1 0 7 票
藤 垣 裕 子	5 5 3 票
山 本 隆 司	4 5 1 票

白票 5 8 票

計 2 1 6 9 票

総長候補者の決定

総長選考・監察会議は、第12回総長選考・監察会議において、総長選考・監察会議内規に基づき、求められる総長像に照らし、総長候補者資料等、推薦書、面接を含めた調査、所信表明及び意向投票の結果を総合的に考慮して、総長予定者を決定した。

令和8年度 総長選考・監察会議活動状況

- | | |
|------------|---------------------------------|
| 4月 1日 (水) | 第1回総長選考・監察会議 (書面審議) |
| | ・ 議長の選出について |
| 4月 22日 (水) | 第2回総長選考・監察会議 |
| | ・ 議長代行の指名について |
| | ・ 今年度の総長選考・監察会議の進め方について |
| | ・ 学内委員によるワーキング・グループへの検討事項の付託 |
| | ・ その他 |
| 5月 29日 (金) | 第3回総長選考・監察会議 |
| | ・ 代議員会からの第1次総長候補者推薦に係る通知案について |
| | ・ 第1次候補者決定通知案について |
| | ・ 代議員会の立会人について |
| | ・ 総長選考における第2次候補者への共通質問の募集結果について |
| | ・ 総長選考に係る面接及び質問について (非公開) |
| | ・ その他 |
| 6月 19日 (金) | 第4回総長選考・監察会議 |
| | ・ 運営方針委員の選任について (非公開) |

	・ 第1次総長候補者の決定に係る表決方法の確認について ・ 第1次候補者決定通知案について ・ 総長選考・監察会議委員に係る申し合わせについて ・ 総長選考に係る面接及び質問について（非公開） ・ その他
6月30日（火）	第5回総長選考・監察会議（書面審議）
～ 7月 1日（水）	・ 第1次総長候補者の決定について
8月 5日（水）	第6回総長選考・監察会議（書面審議）
～ 6日（木）	・ 第1次総長候補者からの辞退申し入れについて
8月10日（月）	第7回総長選考・監察会議
	・ 総長選考・監察会議と運営方針会議との意見交換について（非公開） ・ 総長選考に係る面接及び質問について（非公開） ・ 第2次候補者及び総長予定者の決定に係る事項について（非公開）
8月12日（水）	第8回総長選考・監察会議（書面審議）
～ 13日（木）	・ 第2次候補者を決定するための手順についての改訂について
8月14日（金）	第9回総長選考・監察会議
	・ 第1次総長候補者に対する面接調査（非公開）
8月17日（月）	第10回総長選考・監察会議
	・ 第1次総長候補者に対する面接調査（非公開） ・ 第2次候補者を決定するための手順について
8月18日（火）	第11回総長選考・監察会議
	・ 第2次総長候補者の決定について（非公開） ・ 第2次候補者及び総長予定者の決定に係る事項について（非公開）
9月28日（月）	第12回総長選考・監察会議
	・ 次期総長予定者の決定について（非公開） ・ 次期総長予定者の選考理由及び選考過程の公表について（非公開）

ふじ がき ゆう こ
藤 垣 裕 子



生年月日

昭和37年 4月19日（64歳）

学 歴

昭和60年 東京大学教養学部基礎科学科第二（システム基礎科学）卒業

昭和62年 東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻修士課程修了（学術修士）

平成 2年 東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻博士課程修了（学術博士）

資 格

平成 2年 3月 博士（学術）（東京大学）

専 門

科学技術社会論，科学計量学

職 歴

平成 2年 東京大学教養学部基礎科学科第二助手

〃 8年 科学技術庁科学技術政策研究所主任研究官

〃 12年 東京大学大学院総合文化研究科助教授

〃 22年 東京大学大学院総合文化研究科教授

〃 25年 東京大学総長補佐

〃 27年 東京大学大学院総合文化研究科・副研究科長 同教養学部・副学部長

〃 28年 東京大学 教育研究評議員

令和 3年 東京大学理事・副学長（令和7年度まで）